

平成29年度 岩手県立盛岡商業高等学校経営計画

校長 田中 耕之助

		対 象			
		生徒	保護者	地域	他（進路先）
1 現状把握及び将来展望	(1) 校 に 対 す ニ ズ	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深くわかりやすい授業 ・部活動の活性化と楽しい学校行事 ・進路目標の確立と達成 ・誰もが安全・安心で楽しく充実した生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業と確かな学力の定着・向上 ・基本的な生活習慣の確立と部活動の活性化 ・きめ細かい指導と情報提供による進路目標の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活躍 ・挨拶や地域行事への参加による地域活性化への貢献 ・開かれた学校 ・地域創生に寄与できる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・盛商ならではの「士魂商才」を身につけた優秀な人材の輩出 ・時代の変化に対応できる市場開拓型人材の育成
	(2) 校 に 響 け る 変 化	<ul style="list-style-type: none"> ・現行学習指導要領の完全実施に伴う観点別評価の本格実施 ・高校・大学・高大接続の三位一体改革と新学習指導要領への対応 ・高度情報化社会とグローバル化、少子高齢化、地域創生に対応できる人材需要の増加 ・AI、ロボット、IoT技術の進展、流通イノベーションにより変化する経済社会・雇用情勢 ・東日本大震災からの復興及び人口減少社会への対応 ・岩手県への国内外からの観光客の誘客拡大と地方創生、産業振興のための商業教育への期待 ・スマホ、SNS等の普及とそれに伴う問題点の増加 ・生徒の精神的脆弱化 ・複雑化、不透明さを増す国際社会情勢 ・教職員の多忙化と働き方改革への対応 			
	(3) パ ー ト ナ ー の 関 係	パートナー			
	P T A並びに同窓会	教育委員会	他（関係機関）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A、同窓会ともに協力的である。 ・保護者による学校行事やP T A行事への積極的な参加を求めるとともに保護者並びに同窓会に対して一層情報発信に努め、役割分担を明確にすることでさらに連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「岩手県民計画アクションプラン」「いわての復興教育」等をふまえた校内目標に取り組み、中高連携を図りながら目標達成を図る。 ・継続して、教職員・予算の適正な配置と積極的な支援を希望する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県、市、商工会議所や職業安定所をはじめとする諸機関、団体、企業等と連携を密にし、情報の共有・相互交流を推進する。 ・全国高等学校商業教育協会等の全国組織とも一層の連携を図る。 		
2 日 指 す 学 校 像	<p>～広い視野と「士魂商才」を身につけ、創造的に活躍できる人材を育てる学校づくり～</p> <p>1 校訓 「至誠 協同 自立」</p> <p>2 教育目標</p> <p>(1) 知・徳・体の調和がとれ、高い志をもって生涯にわたり学び続ける意欲を育てる。</p> <p>(2) 克己とフェアプレイの精神を体し、他者を思いやる徳性と行動力を持つ人間を育てる。</p> <p>(3) 人と人とをつなぎ、人に喜ばれる新しい価値を創造する態度と能力を育てる。</p> <p>(4) 商業に関する高い専門性・マネジメント能力を有し、社会で活躍できる人材を育てる。</p> <p>(5) 感謝の心を持って、自己及び社会の課題解決に向け常に挑戦し続ける人間を育てる。</p> <p>3 目指す学校像</p> <p>(1) 安全・安心の下、生徒が明るく、使命感と目標を持って、共に学び合う学校</p> <p>(2) 輝かしい伝統と礼節を重んじるとともに、進取の精神で、新時代の創造に貢献する学校</p> <p>(3) 幅広い教養と高度で質の高い専門教育を施し、進路目標達成に最大限努力する学校</p> <p>(4) 盛岡をはじめ地域の魅力を理解し、誇りと自信をもって発信できる人材を育成する学校</p> <p>(5) 自分たちの学校生活に満足しつつも、生徒・教職員が丸となってさらに高め合う学校</p> <p>4 目標達成のための方途</p> <p>(1) 「生徒の心に灯をともし授業」を合言葉に、目標達成型の授業と観点別評価を進める。</p> <p>(2) 常に授業力の向上に努め、課題解決能力とコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>(3) 商業倫理を究め「士魂商才」を体現できる文武両道の生徒指導の充実を図る。</p> <p>(4) 生徒の志を育むため、計画的にキャリア教育を展開し、早期の進路実現を図る。</p> <p>(5) 全職員が自らのP D C Aサイクルを意識し、授業改善や業務改善、指導力向上を図る。</p> <p>(6) 県民から信頼される学校として、危機管理とコンプライアンスの徹底を図る。</p>				

5 本年度重点目標

(1) 学習指導の充実

- ① 各科目とも「基礎的・基本的な知識・技能」「課題解決のための思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の育成を目指し、観点別評価の工夫と実践を行う。
- ② 全教科で「主体的・対話的で深い学び」の研究をすすめ、「課題解決に向け協働する力」「自分の考えを表現する力」「クリエイティブな思考力」の育成を図る。
- ③ 授業と連動した課題を計画的に出し、家庭学習習慣の定着につなげる。
- ④ 専門教科並びに英語における取得資格目標を自ら設定させ、上位級に積極的に挑戦させる。
- ⑤ 国数英の主要三科目の基礎・基本の定着を図り、平成30年度基礎力確認調査(2年次)での目標正答率を、国語55%、数学55%、英語55%とする。(県平均の105%)
- ⑥ 授業公開や互見授業の実施参加率を100%とし、授業者・参観者双方の授業力向上を図る。
- ⑦ 専門教科における高大連携授業を進め、さらなる専門性と向学心を養う。
- ⑧ 盛商マート、楽天IT学校などを活用し、実践的なビジネス教育を継続して展開する。
- ⑨ NIE(新聞学習)に取り組み、社会的課題についての問題解決学習に資する。

(2) 生徒指導の充実

- ① 基本的生活習慣の確立・人権尊重精神の醸成
 - ア 欠席率・遅刻率ともに1%以内を目標とし、併せて「時間を守る」指導を推進する。
 - イ 「挨拶」「整容・マナー指導」「清掃」の徹底により社会性の育成を図る。
 - ウ ネット、SNS等も含めて規範意識を高め、「いじめ」「盗難」等の問題行動ゼロを期す。
 - エ 「食育」を推進し、自ら弁当を作る日を設けるなど「食の自立」に向けた指導を推進する。
 - オ 男女混合名簿の使用により、男女共同参画社会における男女平等・人権尊重精神の醸成を図る。
- ② 部活動・対外活動の活発化
 - ア 部活動は全員参加とし、運動部・文化部ともに県大会上位進出、全国大会を目指す。
 - イ 学校行事での生徒の活躍の場を増やし、生徒会活動・委員会活動を活性化する
 - ウ 盛岡さんさ踊り等への積極的な参加によって、地域文化理解と自己有用感を育てる。
- ③ 生徒理解と相談支援の強化
 - ア 特別な支援を必要とする生徒を把握し、心身の健康管理と、相談態勢の確立に努める。
 - イ 教育相談の充実と個々の生徒に対する共通理解を図り、不登校生徒ゼロを目指す。
 - ウ 学校評価で「高校生活に満足している」とする生徒の割合が85%以上となることを目標とする。(H28:84.1%)
- ④ 「復興教育」「防災教育」等への取り組み
 - ア 「復興交流支援活動」：沿岸部地域との生徒会交流や部活動交流を中心に取り組みを進める。
 - イ 防災・減災学習の機会を設定し、ESD(持続発展教育)と併せ、課題解決型学習の推進を図る。
 - ウ 1学年「総合的な学習の時間」を通じて岩手の観光産業の振興について学び、将来の担い手育成に資する。

(3) 進路指導の充実

- ① 「職業倫理」と将来の自己実現の「志」を育み、個々の進路目標を早期に確立させる。
- ② 継続して進路目標達成率を進学、就職ともに100%とし、早期達成に取り組む。
- ③ 県内企業訪問やインターンシップの実施を通して、県内の企業を知るとともに勤労観・職業観の育成を図る。
- ④ 職業講話・進路ガイダンスの充実と適時適切な情報発信による啓発をおこなう。
- ⑤ 高大連携、朝学習や課外、総合的な学習の時間や資格取得のための取り組みを強化するとともに、作文小論文指導・面接指導・添削指導等個別指導の充実を図る。
- ⑥ 地域・企業と協働した「キャリア教育」の一層の充実を図り、あらゆる場面で、コミュニケーション能力、協調性、忍耐力等の社会人としての基礎力を養う。

(4) 保護者・地域との連携

- ① PTA・同窓会と学校経営計画を共有し、総会参加率を高め、協働して教育目標実現にあたる。
- ② 保護者との面談、相談や三者面談を通して情報を共有し、指導や支援について連携を図る。
- ③ 学校評議員会や地域・保護者から指摘された要望や課題に迅速に対応する。
- ④ 地域の行事等への積極的な参加と「盛商マート」の開催により、相互理解と交流を深める。

(5) 開かれた学校づくりの推進

- ① 学校ホームページの迅速適切な更新や『盛商新聞』、メール配信システム『楽メ』、各部門の『たより』等による情報発信をより強化する。
- ② 体験入学や高校説明会、公開授業、中学校PTA来校の機会を捉え、中学校・保護者・中学生の本校理解を促す。
- ③ 学校評価結果を公表するとともに教職員全員で課題を共有し具体的な改善に取り組む。
- ④ 行政や商工会議所、企業と連携し、地域の人材と教育力の活用を積極的に図る。